

英語の授業は「英語」で進めるための工夫
~Teaching English In English~

1. はじめに

本日は貴重な機会を与えていただき、ありがとうございます。今日は、いわゆるオール・イングリッシュの取り組みではなく、「なるべく英語は英語で教える」取り組みを紹介させていただきます。高校ではすでに始まっていますが、中学でも「英語の授業は『英語』で」という時代に入ります。私自身、なるべく英語を用いて指導し、生徒が英語をたくさん使う授業を目指していますが、時には逆風が吹いたり、自分自身が空回りをしたりしながら試行錯誤を繰り返しています。これまで英語で進める授業を公開し、事後研などで声をかけていただいた内容を以下に挙げます。

- ① 高校入試にマイナスの影響はないですか？
- ② 「お客さん」になる生徒はいませんか？
- ③ 英語に自信がないので…。

この他にも、「英語での指示や問いかけに次々と反応している生徒」についてコメントをいただいております。1年生の初回の授業からほぼすべて英語で進めることは可能です。そして、最初からやればそれが「あたりまえ」の状態ですから逆風も少ないです。また、途中から（この2学期から）でも十分チャレンジできると考えます。

2. 英語が授業で使われる機会を分解してみる

授業で英語が使われる量を増やすとしたら、以下のどこが手をつけやすいでしょうか。また、どのような手順が好ましいでしょうか。

- ① 教員→生徒
- ② 教員←生徒
- ③ 生徒⇄生徒

①は、生徒にとって英語がインプットされる機会となり得るので、言語習得（学習）の面からも最初に持つてくることは支持されるのではないのでしょうか。以下、②は生徒にとってアウトプットの機会となります。③が教室で見られたらその指導計画は成功と言って良いのではないのでしょうか。さらにそれが自発的に発生したら大成功だと考えています。授業の後、廊下で生徒がふざけて英会話をしている様子を見る時があります。そんな時、「子どもが耳で学ぶ力ってすごいなあ。」と感心してしまいます。

3. 英語で授業を進めるために、シナリオを用意する

授業に不可欠なものは「理解可能なインプット」であると考えます。それも耳から入るインプットを重視しています。だからと言って、多くの生徒にとって1日50分と限られている英語を聞く機会が無秩序な「英語のシャワー」では効率が悪いと考えます。さらに、教科書という制約（補助）があるので「計画的な英語のシャワー」にしなければなりません。

シナリオを書く時の留意点

- ① 既習事項と対比させる。
- ② 適度なくり返しを演出する。
- ③ 最小限の日本語に止める。

シナリオはいわゆる「指導案」です。研究授業でもない限り指導案は書かないという先生も多くいると思います。しかし、生徒の英語力と教科書という制約の中で英語を教えるためには、毎回、「よく練った」シナリオが必要だと考えます。しかし、日々の多忙な業務の合間に指導案を書くのは簡単ではありません。

シナリオを書き続ける方法

- ① 指導書の力を借りる。
- ② 指導案をパターン化する。
- ③ 前の年の指導案を改定する。

典型的な3つのパターン

- ① 帯学習→復習→文法導入→確認・練習→活用→書く→まとめ
- ② 帯学習→復習→本文導入→音読→書く→まとめ
- ③ 帯学習→復習→文法導入→確認・練習→本文導入→音読→書く→まとめ

4. 英語で授業を進めるために、実物・写真・イラストを用意する

英語が何もわからない生徒でも、実物などを見せながら話せばなんとかなるものです。視覚情報をふんだんに使うことで、先生が使っている英語に臨場感が加わり、生徒は次第に引き込まれていくはずで、また、表情やジェスチャーも効果的に取り入れることで抽象的なことも日本語を使わずに扱えるようになります。

視覚教材を楽に用意するコツ

- ① A4、白黒でも十分。
- ② 同じ教材（イラスト、写真等）を使い回しできるシナリオを書く。
- ③ 準拠ピクチャーカードを使いこなす。